

生徒の学習意欲向上に向けたコメントの改善

ー自主学习ノートおよび生活の記録へのコメントの記入を通してー

M17EP003

内田 圭

1. 問題

山梨県では、新やまなしの教育振興プランの基本方針2で、学習意欲の向上を掲げている(山梨県教育委員会, 2014)。したがって、学習意欲の向上に向けた取り組みとして、どのようなことができるかを考えた。ここでいう「学習意欲」とは、栃木県総合教育センターが、「学習者が意思をもって、自発的に学習活動を求めようとする心の働き、①学習活動そのものに対する欲求、②自己実現の手段としての欲求(栃木県総合教育センター, 2010)」と述べているが、この考えを参考にして、「学習者が意思をもって、自発的に学習活動を求めようとする心の働き、学習活動そのものに対する欲求」であると捉える。

学習意欲と教師のコメントとの関わりについて、木村(2008)は、内発的動機づけに及ぼす報酬の効果として、言語報酬は内発的動機づけを高める効果があるとしている。このことから、教師の言葉かけによって、生徒の学習意欲を向上させていくことができるのではないかと考えた。教育現場で、教師が生徒に対して言葉をかける機会が多くある。その中でも、自主学习ノートや生活の記録などに対するコメントは毎日行うものであるが、これらに対しての研究はこれまであまり行われていない。したがって、本研究では、自主学习ノートおよび生活の記録に対する教師のコメントに着目して考えていくこととした。

木下(2015)は、学習意欲を高める要因を考慮しての授業観察として、教師の言葉かけを授業観察の8つの視点から分析した(表1)。このことを参考にして、自主学习ノートおよび生活の記録に対する教師のコメントをいく

つかの分類の視点に基づいて分析し、生徒の学習意欲向上に向けて教師のコメントを改善していきたいと考える。

コメントをする際、事前に以下のことを意識する点として考えた。堀ら(2013)は、自主学习ノートに対する指導のポイントとして、4つの観点を挙げている。1つ目はできる限り短いこと。2つ目は、子どもに考える手がかかりを与え、学習内容を深める契機となるものであること。3つ目は、教師の働きかけに対して、子どもが反応した際に、教師が率直によさを認めること。4つ目は、「どんな」「それで」「ほかに」「なんで」「なにが」「いいね」「すごい」などの三文字のコメントを用いることとしている。そこで、まずはこれらの観点を意識してコメントを行うこととする。その後、観察や各調査を行っていく中で、それらの結果を分析し、コメントの改善点を検討していくこととした。

表1 授業観察の8つの視点

生徒の発言を承認する言葉
生徒の発言を称賛する言葉
アイデアを評価する言葉
生徒に選択させる言葉
学習を促し、勇気づける言葉
学習に挑戦するよう促す言葉
学習内容を深めさせる言葉
生徒の思考を見るための言葉

2. 研究の目的

本研究では、自主学习ノートおよび生活の記録に対する教師のコメントを見直したり、コメントを分類する視点に基づいて分析した

りしていく。そのなかで生徒の学習意欲向上に向けて、教師のコメントを改善することと、学習意欲につながるコメントを明らかにすることを目的とする。

3. 研究概要

(1)対象校 山梨県内の中学校

(2)時期 2017年5月~12月

(3)対象生徒

第1学年生徒(男子7名、女子12名)

(4)研究方法

本研究は、以下①から④の方法で行った。

①観察(授業やその他の時間)

週1回(時期によっては複数回)、授業やその他の時間の観察、自主学習ノート、生活の記録の取り組みから生徒の実態を把握していく。また、他の先生方が行った、自主学習ノートや生活の記録に対するコメントを分析していく中で、コメントの改善点を検討した。

②コメント記述

5月から7月までは生活の記録と自主学習ノート、8月から9月までは生活の記録、10月から12月までは自主学習ノートを対象にコメントをした。

③アンケート調査

実態調査では、選択形式・自由記述形式のアンケートを用い、生徒の実態把握や生徒の意欲につながる言葉を調査した。中間調査・最終調査では、自由記述形式のアンケートを用い、教師のコメントの改善点を検討した。また、中間調査においては、教師が書いたコメントを今回対象とした生徒がどのくらい見ているかを調べるための質問項目も設定した。具体的には、以下表2のとおりである。

④授業実践

数学科の授業を行い、単元を通しての実践ではなく、観察を通し、生徒の実態を把握していく中で定期的に行った。具体的な回数は以下表3のとおりである。

表2 アンケート調査について

実態調査(六月)	選択形式：栃木県総合教育センターより、全28項目5件法(表11) 自由記述：『先生に言われて嬉しかった、またはやる気が出た言葉』はありますか？
中間調査(九月)	選択形式：「先生(内田)が書いたコメントはどれくらい見ますか。」の全1項目5件法 自由記述：「先生(内田)のコメントで、『嬉しかった、またはやる気が出た言葉』、『いやだった、またはやる気がなくなった言葉』はありますか？」
最終調査(十一月)	自由記述：「先生(内田)のコメントで、『嬉しかった、またはやる気が出た言葉』、『いやだった、またはやる気がなくなった言葉』、『こんなことが書いてあるのもっとよかった、という言葉』はありますか？」

(注)表11は最終ページに記載

表3 実践した授業の回数について

	7月	9月	10月	11月	12月
回数	1回	1回	2回	2回	2回

4. 結果と考察

前章で述べた研究方法を実践したことで、生徒の実態や教師のコメントの良かった点、改善点が明らかになった。また、授業を行ったことで改めて感じたこともあった。本章では、それらの具体的な内容やそれに対する自身の考察を述べていく。

(1)実態把握：観察および生徒の記述から

授業やその他の時間における観察、自主学習ノートや生活の記録への生徒の記述を通し

て明らかになった生徒の実態を述べる。

①授業から

授業に関係のないことをしている生徒は
おらず，教師の発問に対して，平均的に2，3
割くらいの生徒が挙手をする事ができた。
また，グループでの活動に抵抗なく，周りと
協力して積極的に取り組める学級であった。

②帰りの会から

帰りの会で自主学習ノートや生活の記録
が配られる際の様子を観察している中で，生
徒が教師のコメントを見ている様子が見られ
た。しかし，確認できた生徒は一部に留まり，
アンケート調査（中間調査）において，生徒
がどの程度，教師のコメントを見ているかを
調べた。

③生活の記録から

部活や遊び，授業に関することについての
記述が多かった。また，生徒によっては，教
師に対しての記述を書く生徒もいた。教師と
生徒とのコミュニケーションツールとして役
割を果たしている場合も多いと考えた。

④自主学習ノートから

個々によって，取り組み方に大きく差があ
った。しかし，取り組み方に関係なく，教師
が書いたアドバイスを実践する様子が見受け
られた。以下は，教師の「少し前のページみ
たいにノートを横にすると書きやすいかもし
れません」というコメントに対する自主学習
ノートの変化である（図1），（図2）。

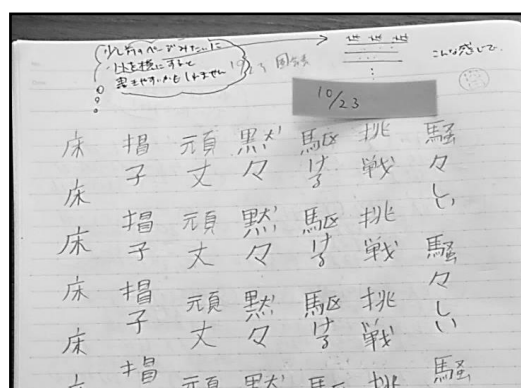


図1 10月23日の自主学習ノート

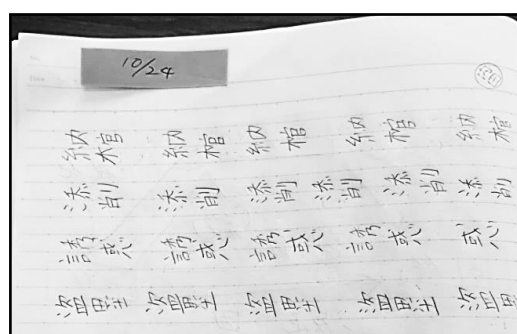


図2 10月24日の自主学習ノート

(2)コメントの改善①：コメントの見直し

自主学習ノートや生活の記録への自身の
コメントを見直す中で見出した，改善点につ
いて，実態調査，中間調査，最終調査のそれ
ぞれの調査に至るまでの期間で整理する。ま
た，他の先生方のコメントを見せていただく
機会もあり，そちらも参考にした。

①実習開始から実態調査までの期間

上記の取り組みの中で，以下の3点を教師
のコメントの改善点として挙げる。

1つ目は，コメントをするペンの色を工夫
することである。当初，私は赤ペンでコメン
トしていた。しかし，赤色は丸つけなどにも
用いられる色であり，生徒にとって間違いを
訂正されるというような印象を与える可能性
があるのではないかと考えた。このことより，
赤ペンではなく，青ペンでコメントを行うこ
ととした。

2つ目は，語尾の工夫である。当初，私の
コメントの語尾は「です。」や「ます。」とい
った言いきりの形であった。しかし，普通の
会話に比べ，紙面上でのやりとりでは，その
ような語尾が生徒にきつい印象を与えるよう
に感じた。他の先生方のコメントでは，「です
ね。」など，柔らかい印象が伝わるような語尾
を用いていた。この表現は，生徒の記述に対
して共感している印象も伝わると考えた。こ
のことから，柔らかい印象が伝わるような
語尾を意識的に用いていった。

3 つ目は、同じことを連続して書かないということである。実践をしていく中で、私が書いたコメントを見返した際、無意識のうちに同じコメントを連続して記述している部分が見受けられた。何度も同じことを記述しているということは、私のコメントが生徒の行動に結びついていないことを意味しており、伝え方を変える必要があった。また、生徒にとっては、同じことを何度も言われることが学習意欲の低下につながると考えた。これらのことから、同じことを連続して書かないということ意識した。

②実態調査から中間調査までの期間

私のコメントを見返す中で、アドバイスのみを記述するコメントが見受けられた。しかし、生徒にとって、そのようなコメントでは、取り組みに対する教師からの評価を感じられず、意欲の低下につながると考えた。したがって、「さらに」という言葉を用い、まずは現状の取り組みを評価した上でアドバイスを伝えるように意識した。

③中間調査から最終調査までの期間

これまで、意欲的に取り組んでいる生徒に対しては、称賛するようなコメントが主であった。それらのコメントは、生徒の意欲を引き出すことにはつながるが、生徒の学習を深めてくような教師の働きかけにはなっていなかった。そこで、教科書の太字のみを記述している部分に対して「例えば？」などの「学習を深めるような言葉」を用いていった。

(3)コメントの改善②：アンケート結果より

①実態調査、②中間調査、③最終調査の結果から、私のコメントの良かった点や改善点について検討する。

①実態調査

選択形式の質問項目について

学ぶ意欲を把握するための質問項目に対する回答の平均値は、ほとんどの質問項目で

高かった。その中で、特に平均値の点数が低かった質問項目を示す(表 4)。

表 4 学ぶ意欲を把握するための質問項目に対する回答

	質問項目	平均	標準偏差
25	勉強面では友だちから頼られていると思う。	3.32	1.13
26	自分は勉強がよくできるほうだと思う。	3.05	1.1

栃木県総合教育センターは、子どもの学ぶ意欲を把握するための質問項目を要素ごとに分類(表 11 参照)しており、表 4 に示す質問項目は、有能感に関わるとされている。また、有能感について、栃木県総合教育センターは、「学習がうまくいったとき、成功したときに感じる人が多い感情。ほめられることにより、高まることがある(栃木県総合教育センター、2010)」としている。このことから、本研究の対象生徒に対して、学習や活動の成果を称賛することが、生徒の学習意欲の向上につながると考えた。

自由記述形式の質問項目について

木下(2015)の授業観察の 8 つの視点を参考にし、自由記述を分類した。以下、それぞれ分類された人数を示す(表 5)。なお、表 5、表 6、表 8 の網掛け部分は、コメントの改善点として意識的に用いていく言葉である。

表 5 分類された人数

生徒を承認する言葉(3 人)
生徒を称賛する言葉(7 人)
アイデアを評価する言葉(4 人)
生徒に選択させる言葉(0 人)
勇気づける言葉(5 人)
挑戦するよう促す言葉(3 人)
学習内容を深めさせる言葉(1 人)
生徒の思考を見るための言葉(0 人)

生徒の自由記述は、「いいね」や「すごいね」などの「生徒を称賛する言葉」に分類される記述が一番多く、これらの言葉が多くの生徒に対して意欲向上につながると考えた。また、有能感に関する質問項目の点数が低かった生徒の自由記述の多くが、「勇気づける言葉」に分類された。私はこれまで、「がんばろう」というコメントは生徒の意欲を低下させる可能性があると考え、実態調査までの期間、あえてそのようなコメントしていなかった。しかし、上記の結果から有能感が低いと考えられる生徒に対しては、教師の「あと少し！」や「頑張りましょう」などという記述が、学習意欲の向上につながると考えた。

・調査結果を踏まえたコメントの改善点

以上のことを踏まえ、実態調査以降、「いいね」などの「生徒を称賛する言葉」を意識的に用いていくこととした。また、有能感が低いと考えられる生徒に対して、「あと少し！」や「頑張りましょう」などの「勇気づける言葉」を記述していくこととした。

②中間調査

選択形式の質問項目について

「先生(内田)が書いたコメントはどれくらい見ますか。」という質問項目で、17人中16人が「よく見る」、1人が「少し見る」という回答を得た。

今回対象とした生徒の多くが、教師のコメントをよく見ていることが明らかになった。このことから、教師のコメントを改善していくことが、生徒の学習意欲向上に向けた1つの手立てになると考える。

自由記述形式の質問項目について

『嬉しかった、またはやる気が出た言葉』に対する回答を、木下(2015)の授業観察の8つの視点を参考にし、自由記述を分類した。また、分類できなかったものに関して新たに3つの視点を加えた。以下、それぞれ分類された人数と具体的な記述内容を表6、表7に

示す。また、『嫌だった、またはやる気が出なかった言葉』に対する回答はなかった。

表6 分類された人数

生徒を承認する言葉(2人)
生徒を称賛する言葉(6人)
アイデアを評価する言葉(0人)
生徒に選択させる言葉(0人)
勇気づける言葉(5人)
挑戦するよう促す言葉(2人)
学習内容を深めさせる言葉(0人)
生徒の思考を見るための言葉(0人)
教師の期待を伝える言葉(3人)
アドバイスする言葉(5人)
生徒を気遣う言葉(4人)

表7 『嬉しかった、またはやる気が出た言葉』

生徒を称賛する言葉 (6人)	
生徒	回答
A	「 <u>学園祭期間も練習しています</u> ばらしいですね。」という言葉がうれしかった。
B	「 <u>劇</u> とても良かったですよ！」という言葉が嬉しかった。
勇気づける言葉 (5人)	
生徒	回答
C	希珠祭の時に、5人6脚で転んだ時に、「 <u>転んでしまうのも頑張っている証拠</u> 」っていう返事が来て、もっと頑張ろうと思った。
D	「 <u>次は新人戦ですね</u> 。頑張りましょう。」や「次も頑張ってください。」と応援メッセージをくれたこと。

表6から、実態調査において改善点として挙げた「生徒を称賛する言葉」、「勇気づける言葉」に加え、「アドバイスする言葉」も学習意欲向上に向け有効に働くと考える。

表7の下線部分から、コメントがどの部分に対しての記述なのかをわかるようにすることが重要であることが明らかになった。できる限り短い記述を意識する必要性を感じながらも、教師がどの部分についてコメントしているかということを生徒がわからないと教師のコメントの意図が生徒に伝わらないと考える。

・調査結果を踏まえたコメントの改善点

以上のことを踏まえ、実態調査以降の実践に加えて、「アドバイスする言葉」を意識的に用いていった。また、なるべく具体的に、必要に応じて、下線や矢印などを用いることで出来る限り短く、具体性のあるコメントになるよう意識していった。

③最終調査

『嬉しかった、またはやる気が出た言葉』に対する回答を、木下(2015)の授業観察の8つの視点を参考にし、自由記述を分類した。また、分類できなかったものに関して新たに1つの視点を加えた。以下、それぞれに分類された人数と具体的な記述内容を表8、表9に示す。『いやだった、またはやる気がなくなった言葉』に対する回答はなかった。また、『こんなことが書いてあるともっとよかった、という言葉』に対する記述内容を表10に示す。

表8 分類された人数

生徒を承認する言葉 (2 人)	
生徒を称賛する言葉 (11 人)	
アイデアを評価する言葉 (0 人)	
生徒に選択させる言葉 (0 人)	
勇気づける言葉 (2 人)	
学習に挑戦するよう促す言葉 (0 人)	
学習内容を深めさせる言葉 (1 人)	
生徒の思考を見るための言葉 (0 人)	
アドバイスする言葉 (6 人)	

表9 『嬉しかった、またはやる気が出た言葉』

生徒	回答
E	自主学で「見やすいです。」などの言葉を書いたあとに「 <u>今度は～ができるといいですね。</u> 」のような言い方をされてやる気が出た。
F	先生はよく「 <u>例えばどんなものがあるかな?</u> 」というコメントをしてくれて、そのコメントのおかげでどんなものがあるかを考えて授業の振り返りもできるのでとてもいいなと思いました!

私は、十分に生徒の実態を把握したうえで、実態調査以降、「現状の取り組みを評価した上でアドバイスを伝えること」を意識してきた。また、中間調査以降は、「学習を深めるような言葉」を学習に意欲的な生徒に対して記述してきた。表9の下線部分から、私が観察を通して検討して実践したコメントが、生徒の学習意欲向上につながったと考える。

表10 『こんなことが書いてあるともっとよかった、という言葉』

生徒	回答
G	もっとこうするといいよ!という <u>アドバイス</u> !

生徒Gは、私が、学習に意欲的な生徒で、工夫して自主学習ノートをまとめているとしていた生徒である。これまで、私はこのような生徒に対しては、「生徒を称賛する言葉」を記述し、自主学習ノートに対して、意欲的でない生徒に対してアドバイスを記述してきた。しかし、表10の下線部分から、意欲的に学習を行っている生徒も、「アドバイスする言葉」を求めていると考える。

(4)授業実践を通して考えたこと

本研究で対象としたクラスには、教師の問いかけに積極的に反応する生徒が多くいた。

だからこそ、教師の発問意図が生徒に伝わっていない場面は生徒の反応でよく分かった。私が生徒の実態を把握したつもりで7月に行った授業においては、普段の授業で活発に発言するような生徒の発言機会が少なくなる様子も見受けられた。そのようなことを踏まえて、ほかの先生方の授業を参観させていただく中で、生徒に意図が伝わるような発問について考えていった。具体的には、端的な言葉で表現することや生徒が理解しやすい言葉遣い、問いなのか指示なのかが明確に分かるような問いかけ方などについて意識していくこととした。また、長期に渡り、朝の会や帰りの会、給食、行事など生徒と関わっていくことで、こちらから話しかけないと関わるができなかった生徒も、生徒から話しかけてくるようになった。このように、生徒の実態を把握し、発問を工夫していくことや、生徒と会話する機会をなるべく作り、人間関係を築いていくことで、授業において発言機会が少なかった生徒の発言する機会も徐々に増えていった。

また、自主学習ノートでは、学習の取り組みが十分にみられない生徒が、授業では、積極的にノートをとり、意欲的に学習に向かっている様子がみられた。このことは、自主学習ノートを見ることだけでは分からなかったことであり、授業を実践することやほかの先生方の授業を参観したからこそ分かり得たことであった。

これらのことから、生徒の学習意欲は一定である訳ではなく、教師の問いかけ方や教師との人間関係などによって変わり、教師の働きかけが大きく関わると考える。したがって、まずは、生徒とコミュニケーションをとる機会を大切にし、生徒の実態に応じて言葉の遣い方や問いかけ方を工夫していくことが、生徒の学習意欲を向上させていく上で求められる。

5. 全体考察

これまで、生徒の学習意欲向上に向けたコメントを改善について検討してきた。

ところで、教育現場において、自主学習ノートや生活の記録に対するコメントを行うことの困難さは以下の2点であると考ええる。1つ目は、コメントを毎日行うがゆえに、形式化や形骸化してしまうことである。2つ目は、教育現場において、数多くの業務があり、コメントに長い時間をかけることはできないことである。

本研究を通して、学習意欲につながるコメントを明らかにしていく中で、コメントを行う際の言葉選びに悩むことが少なくなっていた。こうしたことから、本研究で明らかになったことは、上記のコメントを行うことの困難さを和らげるものであると考ええる。また、特に初任者など、現場経験が少ない場合は、自身が意図したコメントにつながるような言葉選びをしやすくなると考える。

本研究を通して明らかになった、学習意欲につながるコメントを総括すると、以下3点となる。

- ① 「生徒を称賛する言葉」、「勇気づける言葉」、「アドバイスする言葉」に分類された言葉は、多くの生徒が学習意欲につながったとしており、これらに分類される言葉は有効であること。
- ② ①のコメントがどの部分に対しての記述なのかをわかるようにすること。また、「アドバイスする言葉」は、生徒の取り組みを称賛した上で伝えること。
- ③ ①に加え、教師が「学習を深めるような言葉」を用いること。

本研究で私にとって特に意外だったことは、「勇気づける言葉」が意欲につながることで、意欲的な生徒も教師のアドバイスを求めている

るということである。当初、私は「頑張ろう」などの言葉は返って生徒の意欲を低下させるのではないかと考えていた。しかし、本研究を通して、「勇気づける言葉」の有効性が明らかになった。また、これまでは学習に取り組めていない生徒へのアドバイスの必要性は感じていたが、取り組めている生徒に対してアドバイスをするという考えを持っていなかった。しかし、そのような生徒に対しても、「アドバイスする言葉」が有効に働くことが明らかになった。

私が生徒に実習最終日にもらった手紙の中には、私のコメントに対しての記述が多くあり、生徒が教師の言葉を求めていることや教師のコメントをよく見ていることがわかった。だからこそ、まずは生徒一人ひとりの実態を把握したうえで、前述した視点を持ち、実態に即した言葉をかけていく必要がある。そのことが、数多く業務がある中でもコメントをして生徒のニーズにこたえていくことにつながると考える。

今回の研究を踏まえ、今後も生徒の学習意欲向上に向けたコメントの改善を検討していきたい。

6. 引用文献

- 堀哲夫, 仙洞田篤男, 芦澤稔也(2013) 自主学習ノートによる自らの学ぶ力の育成に関する研究—思考や認知過程の内化・内省・外化をうながす教師の働きかけを中心に— 山梨大学教育実践学研究 18 pp133-148
- 木村道浩(2008) 内発的動機づけに及ぼす報酬の効果 弘前大学教育学部教育学研究科修士論文
- 木下陽子(2015) 学習意欲を高める教師の関わり：数学科の授業における子供の意欲を伸ばす言葉かけ 東京学芸大学教職年報 Vol. 3 pp203 - 211
- 栃木県総合教育センター(2010) 学ぶ意欲を育むには https://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosa_kenkyu/manabuiyoku_h22/pdf/manabuiyoku_h22_01_kai.pdf 2017. 5. 11
- 山梨県教育委員会(2014) 新やまなしの教育振興プラン

http://www.pref.yamanashi.jp/kyouiku/keikaku/documents/sinsinkouplan_gaiyou.pdf 2017. 5. 11

表 11 学ぶ意欲を把握するための質問項目

	要素	質問項目
安心して学べる環境		授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる。
		先生は学習のことについてほめてくれる。
		学校では、落ち着いて学習している。
		クラスは発言しやすい雰囲気である。
欲求・動機	知的	よくわからないことは、わかるまで調べたい。
	好奇心	疑問や不思議に思うことは、わかるまで調べたい。
	有能さへの欲求	自分がもっている能力を十分に発揮したい。
		もっとかしこくなりたい。
	向社会的欲求	社会のために役立つような人になりたい。
		思いやりのある人になりたい。
学習行動	情報収集	興味のあることは調べずに済められない。
		わからないことがあると、いろいろな方法で調べている。
	自発学習	テストがあれば、自分で計画を立てて勉強する。
		自分から勉強に取り組んでいる。
	挑戦行動	今までよりも、難しい問題に取り組むことが多い。
		難しい問題であうと、よりやる気がでる。
	深い思考	もつとうまい解き方や別の考え方はないかと考える。
		授業では友だちと話すことで、より深く考えることができる。
	独立達成	できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている。
		難しい問題にであっても、簡単には先生や友だちの助けは求めない。
認知・感情	おもしろさ	いろいろなことを学ぶことは楽しい。
		失敗しても学ぶことはおもしろい。
	有能感	勉強面では友だちから頼られていると思う。
		自分は勉強がよくできるほうだと思う。
	充実感	毎日、明るく元気に生活している。
		毎日の生活が充実していると感じている。